

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公開番号】特開 2018-11946 (P2018-11946A)

【公開日】平成 30 年 1 月 25 日 (2018.1.25)

【年通号数】公開・登録公報 2018-003

【出願番号】特願 2017-124256 (P2017-124256)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/915 (2013.01)

【F I】

A 6 1 F 2/915

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 19 日 (2020.6.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手方向に延びる略管状の胆管ステントであって、
拡張自在な複数の環状ユニットと、前記複数の環状ユニットのうち、隣合う環状ユニットどうしを長手方向に接続する連結ユニットとを備え、
前記環状ユニットは、周方向に連続した略波形状を形成するストラットを有し、
前記連結ユニットは、前記隣合う環状ユニットの前記ストラットどうしに接続された第 1 及び第 2 連結ストラットを有し、前記第 1 及び第 2 連結ストラットは、前記長手方向と交わる互いに異なる方向に延在するように配置されている胆管ステント。

【請求項 2】

前記第 1 及び第 2 連結ストラットは、前記長手方向に重ならないように配置されている請求項 1 に記載の胆管ステント。

【請求項 3】

前記複数の環状ユニットのうち、一の環状ユニットの前記長手方向の一方側に前記第 1 連結ストラットが連結されるとともに、前記長手方向の他方側に前記第 2 連結ストラットが連結され、

前記一の環状ユニットの前記一方側の前記第 1 連結ストラットと前記他方側の前記第 2 連結ストラットは、周方向に交互に配置されている請求項 2 に記載の胆管ステント。

【請求項 4】

前記第 1 及び第 2 連結ストラットのうち、少なくとも一方は、その延在方向に直交する方向の幅が狭い部分を有する請求項 1～3 のいずれか一項に記載の胆管ステント。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 連結ストラットは、前記隣合う環状ユニットの前記ストラットの屈曲部の近傍に接続されている請求項 1～4 のいずれか一項に記載の胆管ステント。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明は、本発明は、長手方向に延びる略管状の胆管ステントであって、
拡張自在な複数の環状ユニットと、前記複数の環状ユニットのうち、隣合う環状ユニットどうしを長手方向に接続する連結ユニットとを備え、
前記環状ユニットは、周方向に連続した略波形状を形成するストラットを有し、
前記連結ユニットは、前記隣合う環状ユニットの前記ストラットどうしに接続された第1及び第2連結ストラットを有し、前記第1及び第2連結ストラットは、前記長手方向と交わる互いに異なる方向に延在するように配置されていることを特徴としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明の胆管ステントは、放射支持力が向上し、抗キック性を有し、縮径・展開時のねじれを抑制することができる。